

われている。この工程で染料と糊をまぜてすりこみ、蒸釜で蒸す場合蒸し時間も各工場によってまちまちである。そこでこの蒸し時間によって染色堅牢度にどのような影響をしているかを知るため図7、表1、表2、表3よりみると、まさつ堅牢度においては合金染料を使用して染色時間を60分以上、染色温度を90°C以上で行なった場合は最高の堅牢度が出ることがわかるまた絛糸染色においては浸染と蒸染を併用することが多いので浸染の時間と蒸熱時間を変えることによって60分間染色し染色堅牢度を調べてみると浸染時間が15分で蒸熱時間を45分間行なったものが最も良い堅牢度を示した。また染色時間としては浸染と蒸熱時間を合わせて60分以上行なうことによって染色堅牢度が向上すると考えられる。

㊤ 直接染料による熱湯堅牢度は染色条件を色々変えても、これまでの試験では酸性染料合金染料に比べて悪い。そこでこの堅牢度増進の目的にフィックス剤による後処理を行なってみた。その結果は表4の通りであるが、これからみてフィックス剤の使用量をよく検討しないと耐光堅牢度の低下をみる。またフィックス剤0.1%溶液で処理しても5%溶液で処理しても効果はほとんど同じであるので使用量は出来るだけ少ない濃度で使用方法がよい。

㊦ 直接染料、酸性染料、合金染料共に表1、表2、表3からみて、まさつ堅牢度が向上すれば熱湯堅牢度も同じく向上することがわかる〔むすび〕

染色方法によってかなり染色堅牢度が違ってくるのがわかったので、各工場共その染料のもつ最高の堅牢度を出すような染色方法を指導してゆきたい。また染色助剤による各種染料の染色に対する影響についても十分な検討をしたい。

3.2.8. 〔題目〕アンスラゾール染料による大島絛糸染色法

杉 尾 孝 一

〔目 的〕

大島絛糸染色において淡色や鮮明な色調を必要とする場合、現在使用されている直接染料や

酸性染料では色彩的な点や耐光堅牢度において問題を起すことが多い。そこでこの点に最もすぐれた染料としてアンスラゾール染料を選び大島絛糸の染色加工に取り入れて試験を行なったので報告する。

〔供試絛糸及染料名〕

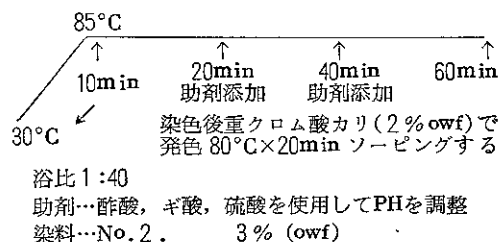
- 絛糸-----㊦ 鹿児島県織物組合で燃糸した
21d×7
㊦ 21d×7 絛糸を絛糸でくくった
ムシロ
染料-----No. 1---アンスラゾールグリーン1B
(ヘキスト社)
No. 2---アンスラゾールレッド
LFBB (〃)
No. 3---アンスラゾールレッド
IFBB (〃)
No. 4---アンスラゾールグレー1BL
(〃)

試験1 〔絛糸染色における染浴のpH検討〕

表 1

	ロンガリット添加		ロンガリット添加ナシ	
	木綿えの汚染	絛えの吸収位	木綿えの汚染	絛えの吸収位
PH2.8~3.1	汚染著しい	1	汚染著しい	1
PH3.9~4.3	汚染 ナシ	2	汚染著しい	2
PH4.7~5.1	汚染 ナシ	3	少し 汚染	3
PH5.5~6.0	汚染 ナシ	4	汚染 ナシ	4
PH 7	汚染 ナシ	5	汚染 ナシ	5

絛の染色法に準じて絛糸を木綿でくくったムシロを水に浸して下記の条件で染色した。



染浴のPHの違いによって染料吸収の比較と木綿えの汚染を調べたが、絛糸えの吸収はPHが低い程良好であるが木綿えの汚染がひどく、カスリの切れも良くない。又安定剤であるロンガリットCを添加することによって木綿えの汚

表 4

染料名	No. 1	No. 3
酸化剤		
重クロム酸法	鮮 明	最 も 鮮 明
亜硝酸ソーダ法	ややくすみをも って発色	ややくすみをも って発色
過 硫 酸 アンモニウム法	最も高い濃度に 発色	鮮明で濃度的に 高い

そこで発色法によって鮮明度、濃度的にも差が生じることがわかる。重クロム酸カリ法又は過硫酸アンモニウム法が良い結果を得た。

〔結 び〕

アンスラゾール染料は大島紬糸染色への利用として低温染色で緋の切れをよくすることと同時に耐光堅牢度が優秀で鮮明であることなど利用度が高いと思われる。

特にこの染料は直接染料、酸性染料、含金染料などに比較して淡色染の場合すぐれた結果が得られるものと考えられるので広く業界に利用させたい。

3.2.9 〔題目〕反応性染料による絹のローケツ染め試作試験

宮内光子 杉尾孝一

<まえがき>

従来の絹のローケツ染めに一般に使用されてきた化学染料は防染に使用しているロウが溶け出すため低温染色を行なった後アイロンで脱ロウし、ガソリンで洗い、そして蒸すという面倒な工程が必要であった。それに湿潤堅牢度や日光堅牢度が充分でないため実用的に欠けている点があった。この点を解決するため常温で染料を吸着させ弱アルカリ性で布に完全に固着し、ソーピングも可能な反応性染料を使って、絹のローケツ染を試作してみた。

<実 験 例>

試作品—ローケツ染めの着物

(1) 染色液の調製

濃 色 染—絹布 500g
染色濃度—5% (染料25g)
染 料 名—プロシオンブルー 2R (I.C.I)
浴 比—1 : 30 対繊維)

(2) 吸収工程

ロウ描きの終わった被染物を水で十分湿潤させあらかじめ溶解した上記の染料を染浴に加え被染物を繰り、染料がほぼ一様に繊維になじんだ後食塩水を添加し室温で30分間染色し吸収させる。

(3) 固着工程

ソーダ灰 2g/l
温 度 25°C
時 間 60分

あらかじめ溶解したソーダ灰を浴に添加し、60分染色した。

(4) 洗浄工程

ソーピング
中性洗剤 5g/l
浴 比 1 : 30
温 度 95°C
時 間 10~15分

ソーピング後湯洗、水洗、乾燥して仕上げた

<実験結果>

- 1) 絹の風合は染色前と同じで絹布の脆化もなく、ソーピングにより完全にロウが脱落出来て操作が簡単であった。
- 2) 色調がこれまでの直接染料、酸性染料に比べて鮮明に染色することが出来た。
- 3) これまでの絹のロウけつ染の染色堅牢度に比べて高いまさつ、日光、湿潤堅牢度を得ることが出来、実用的な染物が出来た。
- 4) 染色中の技法も簡単で染斑等の問題も起らなかった。

<結 び>

反応性染料を絹のローケツ染めに応用してみた結果、優秀な色調、風合の製品が簡単な操作で確実に製作することが出来た。

3.2.10 〔題目〕合成皮革における含金染料の染色法と耐光堅牢度

川 島 祐 子

最近合成皮革が多く用いられてきているが、手芸の中でも合成皮革は皮革より安価な事、使い易い大きさ (90cm巾、110cm巾) である事、均一なキメである事等により、その占める割合